

審議会会議録

会議名称	平成27年度 第1回伊達市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
議 題	議事 (1) 報告事項 ①有識者会議の概要について (2) 協議事項 ①伊達市人口ビジョン及び総合戦略策定におけるこれまでの経過について ②伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 骨子（案）について ③市民アンケート調査について ④伊達市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子（案）について ⑤今後のスケジュールについて		
開催日時	平成27年5月26日（火） 18:30～20:10		
場 所	伊達市役所 2階会議室A・B		
出席委員	石井吉春 委員、宇佐美雅昭 委員、池田茂樹 委員、的場重一 委員、毛利元幸 委員、川村 守 委員、進藤 慎 委員、影山吉則 委員、鍵谷吉則 委員、杉原 茂 委員、舘崎雄二 委員、栗山潤一 委員、腰原久郎 委員、佐野真三 委員、小畑次男 委員、松本博江 委員、尾川圭延 委員（計17名）		
	所管部課名	企画財政部企画課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画課長）</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>今回の人口ビジョンや総合戦略策定のための有識者会議は、全国の自治体が開催することになる。伊達市としては、こうした国の流れがある以前より、そもそも同じようなことをしようと考えていた。伊達市は、自然減も進み、合計特殊出生率1.28は減少傾向にある。就業者数が最も多かったのが平成7年、平成22年ではそれよりも1,800人減っている一方、高齢者は5,000人増えている。おそらく女性や高齢者の社会進出が進んでいると考えられる。伊達市の主力産業として、農業を挙げることもあるが、実際には、農業は雇用に結びついておらず、医療や福祉にかかる三次産業の人口が、伊達市を支えてきた面がある。一時期人口が増えたのは移住と三次産業の就業者に依る。5期目にあたって、基幹産業をしっかりと考えていこうと決め、「健康産業」を創っていくことを目指すとした。ただし行政が展開すると、費用もさほどかけられず、また、市民も行政には期待しないという悪循環がある。健康をキーワードにしてサービス産業化することで、多少払ってもいいということや、税金を使っただけの過大な支出がないようにするべきと考える。健康であるためには肉体と心が重要であり、また、出生力と相関が高いのはコミュニティだと言われている。伊達という田舎でも、出生率が低いということは、コミュニティが希薄だということも認識しなければならない。一人世帯、二人世帯が多いという伊達市では、健康寿命は全国よりも短い。また、国民健康保険の医療費、全国でも北海道と福岡は高いが、伊達市はさらに高い。ここに新たな産業が活性化する可能性がある。こうした視点を持って、新たな伊達らしい産業を創っていき、それを全国に発信していきたいと考えてる。3.5万人は全国の自治体の中で規模的に真ん中であり、全国のモデルとなり得る。</p> <p>これらは、あくまでも市長としての思い。皆様のご経験を活かし、皆様の思いを、この場でご意見として出してほしい。様々な産業、保育所、漁組、銀行も健康産業に取り組めるということを意識</p>			

して頂きたい。

3. 委員及び事務局自己紹介

4. 座長・副座長の選出

座長には石井委員、副座長には樽見委員を選出した。
(以降の議事は、石井座長が進行)

5. 議 事

(1) 報告事項

①有識者会議の概要について

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】なし

(2) 協議事項

①伊達市人口ビジョン及び総合戦略策定におけるこれまでの経過について

②伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 骨子(案)について

③市民アンケート調査について

④伊達市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子(案)について

⑤今後のスケジュールについて

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】

■座長

- ・人口ビジョンP5のグラフでは、男女別、男性が大幅に出ているということが多い傾向が見て取れるが、一般的には男性よりも、女性の流出が大きいということが懸念されており、将来の出産力が危惧されている。伊達市には高等教育機関がないので、全国の傾向と同じように出て行く部分があることに留意すべき。住民基本台帳のデータは1年ごとに大きく変わるため、平均値を取る等の留意が必要。

□委員

- ・各種人口データでは、大滝地区は考慮されているのか。
- ・和暦、西暦併記してほしい。
- ・アンケートのサンプル数と、その根拠は。

●事務局

- ・各種人口データでは、大滝地区は合併前の数字から考慮している。
- ・和暦、西暦は併記する。
- ・アンケートは2,100人に調査を行う。統計的な信頼を持たせるためには、伊達市規模では1,800ぐらいだが、少し多めにとることとしている。

■座長

- ・国が目指しているような日本全体が2060年1億人というのは根拠が薄く、実際の実現は難しいと思われている。ただ今回はニュートラルな形でやっているため、数字にあまり踊らされることなく、議論をしていきたい。
- ・人口転出入の要因は何か、ということは体系的に把握されてきておらず、今回はじめて、把握するようになった。アンケート伊達市民2,100人というのはかなり切り込むことになるので、その状況を把握することで、どこが改革すべき課題か、という議論ができる。
- ・今回の会議の出席者では、それぞれ自分がやってきたことを是としてきたこともあるだろうが、一般的な北海道の地域の状況見ると、一次産業の従事者数が減ってきた分、産業としては強くなったが、これ以上生産性をあげていっても、地域は生き残れるのか。もっと小さい自治体だとトレードオフな部分まできている。今まさに、地域と産業とトータルとして考えて議論することが重要。
- ・従来の価値観のどこか間違っていて、その結果として人口の動きがあるという問題意識を共有できればと思う。これまで方向感がどこを目指していたか、ということが一致していなかった部分がある。それを折々議論していきたい。

□委員

- ・何故いまのような状況になったかという要因分析はどこまでできるか。原因がわからないと対応策は考えられないのではないか。
- ・自分の立場として何を発言していけばよいか。人口が減少していったって購買力が小さくなっていくということにどのように対応していくのか。

■座長

- ・結局就業要因では人口は減っておらず、高等教育機関がないのが大きい。これまでにはないレベルでの要因は探る必要あり。
- ・商工会議所としては、商店街の後継者問題は人口が減る一つの要素。今頑張っている層がそっくりといなくなったらどうするか、ということを考えなければならない。
- ・基盤産業的なものはどうしても必要になる。農業もそうだが、交流人口を増して外貨をかせぐ観光も、ひとつの基盤産業になり得るだろう。

□委員

- ・ここにいる人達は自分のミッションを理解した上で引き受けていると思うが、9月までに総合戦略を策定しなければならない。また、第3回でKPIの議論になるが、何を発言したらいいのか。
- ・参加者ごとの問題認識の深さが違うのではないか。それぞれの程度の差があって、議論のフィールドに乗らないと思う。KPIの議論をするにも、庁内PTを踏まえたものに意見を言うのか、ブレインストーミング的に議論をするのか。タイトなスケジュールが決まっている中で、どこまでできるか。

■座長

- ・今表面的に整理されたものにもう少し加えた人口動態の要因分析について、委員が共通認識を持った上で、議論をしていくべき。どこが改善すべきターゲットなのか、問題の共通認識が持てないと進められないだろう。
- ・その人口の要因分析に対し、ディスカッションをするという機会は必要だと思う。市民アンケートは間もなく実施されるので、その概略の結果も踏まえて次回議論してはどうか。

□委員

- ・これだけの人数なので、議論はなかなかできない。全国的な人口の動向や、伊達市の強み弱みを踏まえて、議論するのを留意してもらったり、庁内のPTにも民間の人が参加してもらおう、ということまでやるべきではないか。

■座長

- ・事務局と相談して、次回議論を絞るようなことや、アンケート結果をどうみるか、ということ意見交換をしたい。

□委員

- ・我々としても情報を集めており、本州のある自治体では、もうすでに総合戦略を策定している。行政職員の事務方が作文すれば、すぐに作れるだろうが、そんなことはやりたくない。いろんな業界の人材が揃っているのだから、可能な限りテーマを絞って、前々に整理してやっていった方がいい。

■座長

- ・テーマとしては、健康産業という軸にどう議論していくか、ということではないか。ただ、行政だけでは何もできない。この有識者会議で議論し、役割分担を行っていかなければならない。

□委員

- ・総合戦略と総合計画とのリンクや兼ね合いはどのように考えるか。総合戦略で考えた戦略は長期総合計画に反映されるという理解でよろしいか。
- ・計画期間は5年ということか。

●事務局

- ・そのとおりの認識で構わない。

■座長

- ・この有識者会議は、ここでの議論が、総合計画にきちんと入るかどうかの動きをウォッチしていく役割もある。
- ・総合戦略は5年ということだが、ガチガチに固めるというものでもなく、見直しながら修正する。まずは初めてみて、間違っていたらやり直すということを繰り返していくしかない。

□委員

- ・KPIを決めなければならないとされているが、それが人口にどのように影響を及ぼすかどうか

、という議論はどこまで行うのか。

■座長

- ・人口政策はすぐに反映できない。その目標だけに視線が向かったら、短期的にできることが目標になってしまうため、そうした考え方はしない方がいい。5年間では成果は限定的であり、トータルとしての成果はもっと長い期間で出てくる。

□委員

- ・一回目にもかかわらず、突っ込んだ話になっている。他の地域の一回目の会議は、極端なことを言えば、自己紹介をして資料配って終わりというところもあると聞いている。
- ・地方版総合戦略の案が事務局から示されて、3つの柱がある。ここでの議論も、総合戦略のP4、5あたり、具体的に何をしていくかの話に収斂するのではないか。ただ、このような場で話をすると時間がかかってしまい、一方的な議論の表明になってしまうので、もう少しブレイクダウンした形での会議体、すでにあるPTに分科会として議論することに賛同する。
- ・健康産業ということであれば、銀行も関わりやすいが、生涯現役社会の実現などは関わりにくい。銀行の役割は、いろんな情報をつないでいくということであるので、支店も積極的に参加させてもらいたい。

■座長

- ・現状の伊達市のイメージは豊かな高齢社会。人口増の要因となっている移住されてきている人は一定の資産もあり、それを経済の活力にどうつなげるか、それが健康産業という言葉ですっきりと整理できるのではないか。
- ・市長は全体の経済、人口の動きのイメージを持っている。マーケティングして、新しい若者の雇用をどうするか、ということにつなげていくことになる。そこの共通的な理解をもった上で各論にいくことになる。

□委員

- ・人口は今後も劇的には増えないと思う。ただ、登別市、伊達市だけでほとんどの教員生活を送る中で感じるのは、この地域は相当数の若者、教え子たちが、就職、転職などで戻ってきている。
- ・今のかなりの生徒が、働けるものであればこの地で働きたい、残留したいという気持ちを強く持っている。最終的に上級学校に行っても戻って来れるなら戻ってきたいという人が多い。
- ・子どもたちが自分の10～20年後は伊達周辺で暮らしている自分の姿がイメージできるか、先を見通せるかどうか。高校を出て何かしらのスキルを身につけた子ども達が、まだこの地に戻ってきて、将来、伊達で活躍できるんだという将来展望に対する安心感が、この会議のゴールの一部に位置付けられたらと思う。

■座長

- ・日本は転勤するのが当然という面もある。どこかに行って戻ってきてくる場所があるということを示すことも必要。

■座長

- ・問題意識を共有するための情報を整理して、個々の意見については何らかの形で収集をしていくという場面が必要。早くても意味がないので、2回目以降、素案を固める段階の前に意見収集していく必要があると思う。進め方については一旦預らせて頂き、事務局と相談して決めたい。
- ・いろんな意見を出していくことが、よりよい議論へ導くことになると思うので、ぜひ皆様から引き続きご意見をお願いしたい。

6. その他

【なし】

7. 閉会